使役を表す“让”構文の意味及び各下位類の連続性

The Meaning of “*Rang* 让” Construction in Expression of Causation and the Continuity among Its Subgroupings

高　謙
Gao Qian

Abstract： A causative event is regarded as a kind of causal relationship. Although a causative event can fall into a similar causative category, we can classify the causation into directive causation, permissive causation, inducing causation and non-interfering causation according to different semantic features. This paper demonstrates that the causative function of “*Rang* 让” construction and its four subgroupings are not independent from each other but are continuously connected, and a seamless connection exists among them.

Key word： *“Rang 让” construction　causation　subgroupings　control　continuity*
キーワード： *“让”構文　使役　下位類　コントロール　連続性*

１．はじめに

「使役」の定義について、仁田 2009：22 は「ある主体 X が他の主体 Y に働きかけや影響を及ぼし、それが起因になって、他の主体 Y が動きや変化を引き起こす」と述べている。中国語の使役文は主に“N_1＋让＋N_2＋VP/AP”の形式で表現され（N_1：使役者、N_2：被使役者、VP：動詞句、AP：形容詞句）、「N_1は N_2に VP という動作をさせる/AP という状態に変化させる」という意味を表す。“让”構文は典型的な使役文であるものの、それが表す使役の意味特徴は様々である。次の例(1a)の“让”構文は「使役者“男朋友”は被使役者“狗”に“趴下”するよう指示を出す」という「指示使役」を表す。さらに、文成分の性質や文脈の相違によって、“让”構文は例(1b)のような「許可使役」や、例(1c)のような因果関係を表す「誘発使役」を表すこともできる。

(1) a.男朋友<u>让</u>狗趴下。　(作例)
　［彼氏は犬に伏せをするように命じた。］
　b.老妈始终<u>让</u>我和心爱的人在一起。　(作例)
　［母はずっと私が愛している人と付き合うことを許してくれた。］
　c.吸烟<u>让</u>他的牙变黄了。　(作例)
　［喫煙が彼の歯を黄ばませた。］

このように“让”構文が表す使役の意味特徴は多様であり、さらに、文脈によっては多義的に解釈される場合もある。このような多岐に渡る用法は、中国語学習者にとって習得の難点であり、“让”が例(1a)～(1c)のようにそれぞれ異なる使役タイプを表す動機付けについての説明が求められる。本稿は使役を表す“让”構文における複数の下位類の間の連続性がどのように示され、どのような要素がその連続性に影響するのかを追究していく。

２．先行研究

現代中国語の使役文は兼語文の一種であると主張する先行研究は少なくない。典型的な兼語文とされる例(2a)(2b)では、“我”“她”は兼語として先行動詞句の目的語であると同時に、後続動詞句の主語を兼ねる。

(2) a.姐姐嘱咐我不要睡懒觉。 (作例)
［姉は私に朝寝坊をしないよう言い付けた。］
b.公司通知她去德国。 (作例)
［会社は彼女にドイツへ行くよう通知した。］

例(2a)(2b)の先行動詞“嘱咐”“通知”は“让”に置き換えることができる。兼語文は例(2a)(2b)のように、具体的な使役事態を表すものが多いのに対し、“让”構文はこれに加え、例(2c)のような抽象的な事態や状態変化も表せる。

(2) c.什么可以让企业网站丰富起来？ (作例)
［何が企業のホームページの内容を豊かにできるのか？］

また、例(2a)(2b)の先行動詞句“嘱咐我”“通知她”が独立した動目構造であるのに対し、これらの動詞を“让”に置き換えた“让我”“让她”や例(2c)の“让企业”は単独では成立し得ない。“让”構文は具体的な事態のみを表す兼語文より、その文成分の使用範疇が拡張されており、この点において“让”の文法的機能は「一般化」[1]されていると考えられる。周紅 2005：40 では使役文の構造について、“男朋友（N_1）让狗（N_2）”を使役イベント、“狗（N_2）趴下（VP）”を被使役イベントと称し、両者の間には図 1（図は筆者による）で示すように、使役イベントによって被使役イベントが引き起こされるという因果関係が存在すると示している。

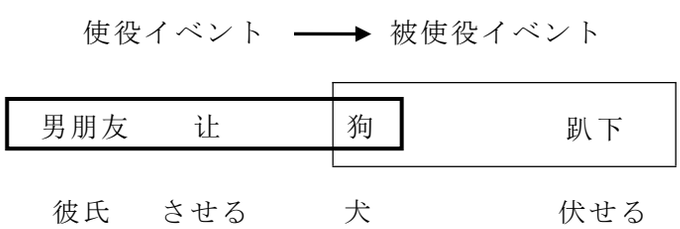

図 1：使役文の構造

先で述べたように“让”は使役標識として様々な意味特徴をもつことから、先行研究では、使役文についての分類が多く見られる。木村 2000 は、現代中国語の使役文を「指示使役」「放任使役」「誘発使役」の三タイプに分けており、使役マーカーとして用いられる各種標識のうち、“让”と“叫”のみが各種使役文を幅広くカバーしていることを指摘している。

(3) a.老师叫小红念课文。 (木村 2000：19)
［先生はシャオホンにテキストを朗読させる。］
b.巨大的兴奋使他睡不着觉了。 (木村 2000：20)
［とてつもない興奮が彼を眠れなくさせた。］
c.让我随便挑一下。 (木村 2000：19)
［私に自由に選ばせてください。］

「指示使役」とは、上の例(3a)のように主語に立つ使役者“老师”が被使役者“小红”に“念课文”という動作・行為を遂行させようと仕向けることを表す構文である。一方、「誘発使役」は例(3b)のように、“我”に “睡不着觉”という状態変化が生じる状況を使役者“巨大的兴奋”が誘発することを表す構文である。「放任使役」は例(3c)のように、“我”が“随便挑”という行為を遂行することを使役者が許可、ないしは放任することを表す。

それに対して、楊凱栄 1989 は使役文を「許容使役」と「誘発使役」に大別し、さらに、「許容使役」を「許可使役」と「放任使役」の二種類に分け、「誘発使役」は「指示使役」「操作使役」「原因使役」を下位類に含むと指摘している。楊凱栄 1989 の分類する「指示使役」と「原因使役」は、それぞれ木村 2000 が分類する「指示使役」と「誘発使役」に相当する。

<table>
<tr><td rowspan="3">木村 2000 の分類</td><td colspan="2">指示使役</td></tr>
<tr><td colspan="2">誘発使役</td></tr>
<tr><td colspan="2">放任使役</td></tr>
<tr><td rowspan="5">楊凱栄 1989 の分類</td><td rowspan="2">許容使役</td><td>許可使役</td></tr>
<tr><td>放任使役</td></tr>
<tr><td rowspan="3">誘発使役</td><td>指示使役</td></tr>
<tr><td>操作使役</td></tr>
<tr><td>原因使役</td></tr>
</table>

表 1：木村 2000、楊凱栄 1989 による使役文の分類

「操作使役」は次の例(4)のように、意志を伝達する方式による指示や命令ではなく、使役者“妈妈”が自分で靴を持って“孩子”に履かせてやることを表す。

(4) 妈妈给孩子穿鞋。 (楊凱栄 1989：77)
［母親が子供に靴を履かせる。］

「操作使役」文では、使役者は手を使って直接操作し、ものを被使役者に与えて働きかける。被使役者の動作を表す V には主に着脱などの動詞が用いられる一方で、「操作使役」を表す使役動作は「ものを与える」意味を伴うのが一般的であり、“给”はその使役マーカーとして使

われる場合が多く、“让”は「操作使役」では用いられない。

また、木村 2000 の「放任使役」とは異なり、楊凱栄 1989 は例(5a)(5b)で示すようにそれを「許可使役」と「放任使役」に区別する必要があると主張している。

(5) a.姑爷，你就<u>让</u>姑娘睡吧。 (楊凱栄 1989：94)
［おじさん、娘さんを寝させてやってください。］
b.<u>让</u>他去发火吧。 (楊凱栄 1989：96)
［勝手に（彼に）怒らせておけ。］

「許可使役」の例(5a)では、被使役イベント“姑娘睡”は使役者“姑爷”の許可なしに行うことが不可能であるのに対し、「放任使役」の例(5b)では省かれた使役者は“他去发火”をただ阻止しないだけで、このような使役者による放任は被使役者が動作を実現させる条件ではない。

本稿では木村 2000 の分類を用いた上で、楊凱栄 1989 の分類のように「放任使役」と「許可使役」を区別し[2]、“让”構文の表す使役を「指示使役」、「誘発使役」、「許可使役」、「放任使役」の四種類に分ける。木村 2012 は「指示使役」と「許容放任使役」の類似性、「許容放任使役」と「誘発使役」の接近点について論じており、各種使役文は互いに独立した分類ではなく、その間の関連性について示唆的な言及はあるものの、各下位類の相違点や体系的な連続性について深く示されていない。本稿では先行研究に基づき、使役を表す“让”構文における各々の文成分の性質を共時的観点から比べた上で、各類の意味特徴を挙げる。加えて、各種の相違点と類似点を考察することを通じて、これら四種類の使役文の連続性について検討する。

３．使役範疇における“让”構文の各下位分類及びその連続性

「指示使役」、「誘発使役」、「許可使役」、「放任使役」はいずれも“N_1＋让＋N_2＋VP/AP”によって表され、形式的には何ら差異はない。N_1 と N_2 には名詞性成分が用いられ、VP/AP も一般的に述語成分に限られる。しかし、文成分の性質や、使役イベントと被使役イベントの間の因果関係は同じではない。本章では、各種使役文がそれぞれ統語的・意味的に区別されながらも連続性を有しており、この連続体が使役範疇を構成していることを論証していく。

3．1．指示使役文と許可使役文の機能分化

動詞としての“让”は、もともと「（財産、席を）譲る」を基本義とし、“N_1＋让＋N_2＋VP/AP”の構造で用いられるようになった後、指示や許可などのような使役機能を獲得したというのが従来の有力説[3]である。

次の「指示使役」の例(6a)や「許可使役」の例(6b)では、“让”は命令や許容という具体的な使役動作の意味をもち、口頭や文字などの意志伝達の方式によって相手に動作をさせることを表すため、例(6a')(6b')のように置き換えられる動詞は多くある。使役者から発せられた指示や許可こそが文の重点であり、被使役イベントにおける動詞は文の中心動詞ではない。これは例(6a'')(6b'')のように被使役者の動作・行為が実現しなくても文が成立することからも明らかである。また、指示や許可を認識する必要がある故に N_1 と N_2 には有情物が用いられる。

(6) a.他不知道什么时候来合适，我就让他明天来。 (作例)
［彼はいつ来ればよいのかわからなかったので、私は彼に明日来るように言った。］
a'……，我就｛命令/请求/拜托/嘱咐/通知｝他明天来。
［……、私は彼に明日来るように｛命令/請求/お願い/通知｝した。］
a".我让他明天来，可他没来。
［私は彼に明日来るように言ったが、彼は来なかった］
b.由于我再三请求，妈妈终于让我和她一起去了。 (作例)
［再三頼んでから、母はやっと私が彼女と一緒に行くことを許してくれた。］
b'……，妈妈终于｛允许/同意/赞成/准许｝我和她一起去了。
［……、母はやっと私が彼女と一緒に行くこと｛を許可/に同意/に賛成/を承認｝してくれた。］
b".妈妈终于让我和她一起去了，可我还是没和她一起去。
［母はやっと私が彼女と一緒に行くことを許してくれたが、私は結局彼女と一緒に行かなかった］

本稿では例(6a)の「指示使役」及び例(6b)の「許可使役」のような「使役者が意志伝達の方式によって被使役者に動作をさせる」表現を「具体的使役」と呼ぶ。
例(6a)は「使役者“我”は“他”に“明天来”の指示をする」というイベントを表す。ここでの“让”は命令のような「上位の者の下位の者に対する強制的な指示」に限らず、文脈によっては請求或いは依頼などとも読み取れる。それに対して、例(6b)は「“我”の望むこと（“和她一起去”）に対して、使役者“妈妈”はこれを許可する」ことを表す。
「指示使役」の使役者は指示によって被使役者を支配でき、動作を仕向けるのに対し、「許可使役」の使役者は被使役者の望む動作を阻止することができ、許可によって被使役者を制御する。いずれの使役タイプであっても使役者は被使役者をコントロール[4]している。使役者からの指示や許可がなければ、被使役者は動作を実施することができない。指示と許可はいずれも使役者の意志によって行われ、被使役者は指示や許可を受けてから動作を行い、被使役イベントVには主に意志動詞が用いられ、具体的なイベントを表す。このように、「指示使役」と「許可使役」には似通った点が多くあり、次の例(7)のようにどちらにも理解できるケースが多く見られる。

(7) 小王让小李回家。 (作例)
［王さんは李さんを帰宅させた。］

しかしながら、共に意志伝達の方式によって使役動作を表すとはいえ、「指示使役」と「許可使役」の意味特徴は異なる。例(7)は「指示使役」と「許可使役」のいずれにも解釈できるのに対し、文脈を付加した例(8a)は「指示使役」にしか読み取れない。なぜなら、“她回家”は使役者“小王”の意志であり、被使役者“小李”は“回家”の意志をもたず、ただ動作主として使役者の指示に従って動作を行うことから、使役者に支配されているからである。

(8) a.小李没想回家，小王却让她回家。 (作例)
［李さんは帰りたくなかったが、王さんは彼女を帰宅させた。］
b.小李想回家，小王让她回家。 (作例)
［李さんは家に帰りたかったので、王さんは彼女が帰宅することを許した。］

「指示使役」のプロセスとしては使役者の意志が先に存在し、被使役者に指示が与えられ、被使役者はそれを受けて動作を遂行する。一方で、「許可使役」の例(8b)は、被使役者“小李”の望む動作“回家”に対して使役者“小王”は阻止せず、被使役者は使役者の許可を得てから行動する。“小王”からの許可は依然として“回家”の実現条件ではあるが、被使役イベントの実現は被使役者の意志に基づくものである。「許可使役」の使役者は被使役者の望む動作を阻止する力をもっており、被使役者は使役者に制御されている。「許可使役」のプロセスは被使役者のある動作を望む意志がまず先に存在し、使役者の許可を得てからそれが実現する点において「指示使役」とは異なる。「許可使役」と「指示使役」における文成分の性質を比べると、「被使役者の意志の有無」(［±意志性］)が両者のもっとも大きな相違点であり、両タイプが機能分化を起こす動機付けであると考えられる。

図 2 で示すように、「指示使役」では指示動作と指示の内容は使役者 N_1 の自主的な意志によって行われるのに対して、「許可使役」では使役者 N_1 の自主的な動作ではなく、被使役者 N_2 からの要求や期待などに対する態度を指し、回答的な意志に属する。加えて、図 3 で示すように、「許可使役」では N_2 からの要求、期待［図 3 の①］といった外的要素が N_1 の回答的な意志［図 3 の②］の前提となる。自主的な意志である「指示」は使役者によって行われ、指示の内容には制限がない。一方、回答的な意志を表す「許可使役」は外的要素に対する使役者の判断や選択を表すため、N_1 の態度は「許可」か「不許可」のいずれかになる。

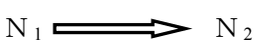

図 2：指示使役

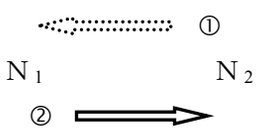

図 3：許可使役

このような「指示使役」と「許可使役」の意味特徴の相違は次の例(9a)(9b)における統語的振る舞いの相違にも反映される。

(9) a.小王不让(??命令/允许)小李回家。 (作例)
［王さんは李さんを家に帰らせない。］
b.我去让(??允许/嘱咐)仆人们准备早饭。 (作例)
［私は下僕たちに朝ごはんの準備をさせにいく。］

指示や許可はN_1の意志によって行われる動作であるが、“不”で否定される例(9a)からは「許可使役」の意味しか読み取れない。指示は使役者自らの意志を示し、被使役者はただ指示に従って動作を行うという単方向的な意志動作であり、使役者は自分自身の意志に対して否定的な態度をもち得ないため、「指示使役」は“不”と共起することがでない。また、“不”は単純に意志動詞を否定するだけではなく、ここでは外的な要素（被使役者の願望）に対する判断にもなり得る。即ち、例(9a)は被使役者“小李”の願望“回家”に対して使役者が否定的な態度をもつことを表すことから、そのようなN_1の態度を表す「許可使役」は“不”と共起することができるのである。

外的な要素を前提とする「許可使役」は自主的意志を表す成分と共起することができない。例えば、主語の自主的意志である目的や意図を表すには、動詞の前に“去”を置くことができる。“去”が用いらる例(9b)は、“仆人们准备早饭”は使役者“我”の目的と捉えられることから、“让”は“允许”に置き換えられず、「許可使役」とはなり得ない。「指示使役」は使役者の自主的意志によるものであり、「許可使役」は使役者の回答的意志によるものである。このように、“不”や“去”を加えることにより、両者の相違点を区別することができる。

3．2．指示使役文から誘発使役文への拡張

「指示使役」を表す例(10a)と同様、「誘発使役」である例(10b)の被使役イベントも使役者によって引き起こされた事態であり、被使役者も［－意志性］［－自発性］という性質をもっている。つまり、使役者からの指示や間接的な影響がなければ、被使役イベントは実現し得ない。

(10)a.我和老公吵架了，让他滚出去，他真的滚了。
(http：//www.babytree.com/community/club201307/topic_187170781.html)
［私は夫と喧嘩して、彼に出て行けと言ったら、彼は本当に出て行ってしまった。］
b.他所做的事总是让生活充满意义。 (CCL：杨澜《杨澜访谈录Ⅱ》)
［彼がやっていることはいつも生活を有意義にさせる。］

例(10b)は被使役者“生活”が使役者“他所做的事”からの間接的な影響を受けて“充满意义”という状態に変化したことを表す。被使役者は使役者からの直接指示を受けるのではなく、使役者が被使役者をコントロールできるか否かは判断できないため、被使役イベントを支配する能力は弱い。「誘発使役」の被使役イベントは使役者による間接的影響によって誘発されるのであり、“让”と同様に使役標識であるとされる“使”“令”は「誘発使役」しか表せない。

次の例(11a)では使役者“体育馆”が、例(11b)では“津巴布韦实行了强制性免费小学教育”が誘発原因として、“奥运会”“所有儿童”に間接的な影響を及ぼし、その状態を“体现高科技的特点”“都有上学的机会”に変化させたことを表す。

(11)a.一流的体育馆使(令/让)奥运会更好的体现高科技的特点。 (作例)
［一流の体育館はオリンピックのハイテクノロジーの特徴をさらに体現した。］
b.津巴布韦实行了强制性免费小学教育，让所有儿童都有上学的机会。

(CCL：1994 年人民日报第 2 季度)

［ジンバブエは強制的に無料の小学校教育を実施し、全ての子供に学校に通うチャンスを与えた。］

c?.一流的体育馆让奥运会更好的体现高科技的特点，奥运会却没体现高科技的特点。

「誘発使役」は被使役者の状態変化を表し、これには使役者の意志は関与しないため、無情物や“津巴布韦实行了强制性免费小学教育”も使役者や被使役者に用いられる。また、すでに実現された事実に限られ、例(11c)の波線部のように結果をキャンセルすることができない。木村 2012：192-193 では、次の例(12a)(12b)を挙げ、「誘発使役文は［－意志性］の状態や変化を意味する表現、即ち〈ナル〉的表現を述語にとることを特徴とする。…（中略）…主語が原因的使役者（無意図的な誘発者）であるため、意図的な使役行為の表現にはできない」と述べている。しかし、実際には例(12c)(12d)(12e)のように［＋意志性］の「誘発使役」も存在する。

(12)a.*我想使他睡不着觉。 (木村 2012：193)

b.*你尽量使她高兴吧。 (木村 2012：193)

c.在伊拉克进行“暴力活动”的武装分子要么想让伊拉克倒退到萨达姆时代,要么就是想让伊拉克处于塔利班式的统治之下。 (CCL :2004 年 9 月新华社新闻报道)

［イラクで暴力活動を行っているテロリストはイラクをサダム・フセイン時代まで後退させようとするのでなければ、イラクをタリバン式の統治下に置くつもりだ。］

d.溶解粗盐时，(我们)应尽量让溶液稀些。 (http：//www.gkstk.com/p-w56538.html)

［粗製塩を溶かす時に、我々はできるだけ溶液を薄めた方がよい。］

e.玩家向上滑动屏幕就会让布娃娃跳跃起来。 (http：//shouji.tgbus.com/bwwpk/16759/)

［プレーヤーは画面を上に向ってスワイプして、ぬいぐるみを跳ねさせることができる。］

例(12c)の使役者“武装分子”や例(12d)“我们”は被使役イベントを実現するため、発話や文字などの意志伝達の方式ではなく、具体的な動作・行為によって“伊拉克”“溶液”に間接的な影響を与え、状態変化を起こさせるのである。例(12e)は使役者“玩家”が画面を上に向ってスワイプすることで、無情物“布娃娃”を跳ねさせることを表す。使役者は被使役者に対して直接に指示するのではなく、［±意志性］の行為を通して間接的に影響を与え、被使役者の状態変化を達成させる。「誘発使役」は「指示使役」や「許可使役」のような「具体的使役」とは異なり、“让”を具体的な使役動詞には置き換えられず、間接影響のもたらされた状態変化は被使役者にコントロールされない。そのため、例(12c)(12d)のように無意志動詞や形容詞も被使役イベントに用いられ、意志伝達の方式である指示や許可と比べて、使役者からの誘発は意志的か無意志的かのいずれも実現し得ることになる。

3．3．許可使役文と放任使役文の相違点

前述のように、“让”は各種使役文で用いられるが、使役マーカーは“让”のみに限られる

ものではない。例えば、“令”“任”“使”なども使役機能を有するが、基本義と使役マーカーに拡張するルートが異なるため、それぞれの表す意味特徴には相違がある。そのうち、“任”（原義：担う）は「見ているだけで何もしない」という意味を表す使役文で用いられる。以下の例(13a)(13b)では、“他们”“其”による“为所欲为”“蔓延”はすでに実現され、且つ持続している自発的な動作・行為であり、使役者“老百姓”“你们”はそれに対して黙認・放任するという「放任使役」を表す。この場合、“让”と“任”は互いに置き換えられる。

(13)a.面对不法分子，老百姓敢怒不敢言，只好任他们为所欲为。 (作例)
［不法行為者に対して、市民たちはじっと怒りを抑えて黙るしかなく、彼らがやっていることをそのまま見ているしかなかった。］
b.你们拿着俸禄，受着百姓信任，却听之任之，让其蔓延。
(http：//tieba.baidu.com/p/1779370777)
［お前たちは国家の俸禄を取り、国民に信用されているというのに、それを蔓延させたまま放っておくのか。］

許可と放任は、意味の上では連続的につながっており、例(14a)は「許可使役」と「放任使役」のいずれに解釈しても差し支えない。「被使役者自身[5]によって動作・行為が行われ、使役者は被使役イベントを阻止しない」という意味特徴は「許可使役」と「放任使役」の類似点である。例(14a)は、「被使役者の望む動作“说上三个月”（未実現）に対して、使役者が許可する」という「許可使役」とも理解でき、「被使役イベント“说上三个月”（持続中）に対して、使役者は放任する」という「放任使役」とも理解できる。

(14)a.如果有谁愿意说闲话，让他说上三个月，往后连他们自己也觉得没味了。
(楊凱栄 1989：97)
［噂をしたいと思う者があっても、三ヶ月も言わせておけば、後に彼ら自身でさえ味気なさを感じるようになるだろう。］

一方、例(14b)は「動作“和她一起去”は使役者“妈妈”の許可のもとで行われる」という「許可使役」であるのに対し、例(14c)は「放任使役」であり、“我”は被使役イベント“雪花就那样的飘落下来”に関与せず、傍観する態度をとっている。

(14)b.由于我再三请求，妈妈终于让我和她一起去了。 (例(6b)の再掲)
c.(我)抱着一把吉他，一面弹奏，一面唱着轻柔的歌，让雪花就那样地飘落下来。
(BCC：席慕容《说梦》)
［私はギターを抱え、弾きながら柔らかい歌を歌い、雪がそのまま降るに任せる。］

「放任使役」の表す「何もしない」ことも使役者の使役行為の一種であるが、意志伝達の方式に頼らない故に、例(14d)のように動詞“允许”“同意”などに置き換えることができない。

(14)d.??(我)抱着……，(允许/同意/赞成/准许)雪花就那样的飘落下来。

放任は被使役イベントの実現条件ではなく、許可がなくても自発的にでき、主に実現済みのイベントで使われるため、結果をキャンセルすることができない。「何もしない」ことを表す上で、意志伝達の方式で表現する「許可」より「放任」の方が動作性[6]が低い。N_2VP が実現されてから、N_1 がそれを放任するという二つの独立した事態を表すため、使役者が被使役者をコントロールできるか否かは判断できず、被使役イベントが使役者の望ましいことであるか否かも不明瞭である。「放任」の作用方向は「使役者から被使役者」に限らず、使役者のもつ被使役者の行為を阻止する力が弱くなるため、使役イベントと被使役イベントの間の因果関係が相対的に弱いのが特徴である。また、「放任使役」の被使役イベントは持続動作であるため、例(14c)のような無情物“雪花”が自発的に実現させた変化や移動“飘落下来”にも用いられる。

3．4．放任使役と誘発使役の曖昧性及びその区別

“让”を用いて表される使役文は文脈依存の度合いが高いため、文成分の性質や前後事態の因果関係を検討しながら意味を区別することになる。次の例(15)は、“妈妈”からの間接的影響によりイベント“你受苦了”の実現ないしは持続を表す。

(15) 宝宝，妈妈<u>让</u>你受苦了。 (http://blog.sina.com.cn/s/blog_4d1a219b01008leb.html)
［子よ、母さんはあなたの苦しみに対して何もできなかった。］
［子よ、母さんのせいであなたに苦労させた。］

例(15)では、使役者が状態変化を誘発したのか、実現されたイベントに対して使役者が放任したかは不明瞭であり、「放任使役」とも「誘発使役」とも解釈し得る。「放任使役」と「誘発使役」の共起する文成分の使用範疇は「具体的使役」より拡大され、その意味も抽象化されている。

動補構造によって使役の事態を表す例(16a)は、動作主による“杀”は具体的な使役動作であり、動作対象はそれを受けて“死”という状態に至ったことを表す。しかし、例(16b)で示すように“让”構文を用いて例(16a)の事態を表すことはできない。なぜなら、標識“让”の意味は希薄化しており、主に因果関係を指し示す機能を担い、具体的な使役動作“杀”を表せないからである。

(16)a.小王杀死了小李。 (作例)
［王さんは李さんを殺した。］
b.?小王<u>让</u>小李死了。 (作例)

また、次の例(16c)では、「放任使役」の動作性が弱くなり、主体の被使役イベントに対する放任が積極的であるか消極的（無意識）かも判断できない（［±意志性］）。

(16)c.我立在风中，让风从我的头顶呼啸而过。 (作例)
［私は風の中に立ち、風が私の頭から吹き去るに任せた。］

「放任使役」と「誘発使役」のいずれもどのような方式で被使役イベントを引き起こしたのかではなく、両方は共に使役イベントと被使役イベントの間にどのような因果関係が存在しているのかを表す。本稿では、このように使役動作が抽象化された表現を「抽象的使役」と呼び、「具体的使役」と区別する。

“让”構文における N_2 は先行動詞句の目的語であると同時に、後続動詞句の主語を兼ねるため、N_2VP が独立文として成立できるのがその統語的特徴の一つであるが、意味に注目して見ると、その N_2VP は自発的に実現するとは限らない。例えば、「放任使役」の被使役者は自分自身の意志や傾向（無情物が自ら動作を実現できる性質。例えば、「風が吹く」や「雪が降る」）によって行動するため、使役者がなくても、被使役イベントを自発的に行うことが可能である（［＋自発性］）。次の例(17a)では“她”の動作“从眼前飞走”が実現されているのに対して、使役者“他”はそれを阻止していない。例(17a)は「放任使役」で、この場合“让”は“任”に置き換えられる。一方、「誘発使役」は「使役者からの誘発によって引き起こされた」事態であり、使役者からの誘発がなければ、N_2 はすすんで VP を実現することができない（［－自発性］）。「誘発使役」の例(17b)では被使役者“自己的产品”は無情物として、使役者の誘発によって“风靡市场”という状態変化が実現されている。使役者またその誘発がなければ、結果としての被使役者イベントは実現できない。この場合、“让”は“使”、“令”に置き換えられる。

(17)a.远在英国的他鞭长莫及，只能让她从眼前飞走。 (BCC：凌淑芬《别爱那么多》)
［遠くイギリスにいる彼は力及ばず、彼女が目の前から離れていくのを見ているしかなかった。］
b.公司研发自有技术，很快就让自己的产品风靡市场。 (作例)
［会社は新しい技術を開発して、すぐに自分の製品を市場で流行らせた。］

要するに、「放任使役」と「誘発使役」は間接的に被使役者に影響を与える点において類似しており、共に「抽象的使役」に属するものの、被使役イベントの実現する条件とルートはそれぞれ異なる。「放任使役」は「許可使役」から拡張されたもので、「誘発使役」は「指示使役」から拡張されたものであるため、被使役者が動作を自発的に行えるか否か（被使役者の［±自発性］）という観点から、「放任使役」と「誘発使役」は区別されるのである。

4．おわりに

本稿では、“让”が表す使役文の下位類を挙げながら、種々の意味特徴や文成分の性質を比較するとともに、各種の使役機能の間の相違点や連続性について検討した。考察の結果、“让”構文の表す使役機能は「具体的使役」と「抽象的使役」の二種類に大別でき、さらにその下位類である「放任使役」、「許可使役」、「指示使役」、「誘発使役」は互いに関連性を保ちながら、連続的につながっていることを論じた。この関係を図式化すると図 4 のようになる。

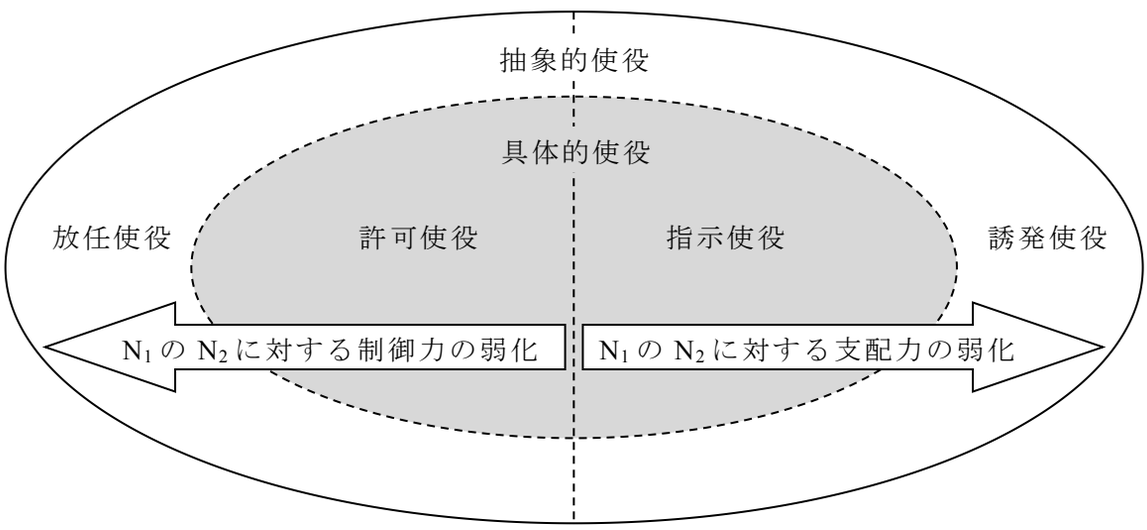

図 4：“让”構文の表す使役機能に関する本稿の分類

「具体的使役」は使役者が被使役者に対して意志伝達の使役動作を発することを表し、被使役イベントが実際に実現されたか否かは重点ではない。それに対して、「抽象的使役」は使役イベントと被使役イベントの因果関係に重点が置かれ、被使役イベントは実現された動作や状態変化であることから、結果をキャンセルできない。

加えて、本稿では「被使役者の意志の有無」を動機付けとして「具体的使役」は「指示使役」と「許可使役」の機能に分けられることを論述した。また、「誘発使役」は使役者が被使役者に間接的な影響を与えて被使役イベントを実現させる。使役者の支配力が「指示使役」より弱くなるに伴い、“让”構文は「誘発使役」を表すようになることを論証した。さらに、3.3 節と 3.4 節では、「放任使役」における使役者は実現済みの被使役イベントに対して傍観の立場をとるだけであり、使役者の被使役者に対する制御力は「許可使役」より弱い。“让”構文は「許可使役」から拡張され、「放任使役」の機能を獲得したことについて論じた。

結論として、“让”構文が表す「放任使役」、「許可使役」、「指示使役」、「誘発使役」の四つの下位類は互いに独立した範疇ではないことを論証した。本稿は、各種使役文がそれぞれ統語的・意味的に区別されながらも連続性を有しいることを明らかにした。

注

1 「一般化」（generalization）の概念について、Bybee1994：289 では“Generaliazation is the loss of specific feature or meaning with the consequent expansion of appropriate contexts of use for a gram［一般化とは、ある文成分について、それが一部の特定の機能或いは意味を失うと同時に、共起するコンテクストの範囲が拡張されることを指す］”と述べている。

2 その妥当性については第 3.3 節で論じる。

3 石毓智 2006：59 は“‘让’作为普通动词……表达‘转让权利，职位，财产等’,……后来出现了‘谦让，礼让’。”［“让”はもともと普通の動詞として……「権利、職位、財産を譲る」意味を表した後、それを基本義として遠慮、「へりくだり譲る」意味を表せるようになった］と述べ、江藍生 2000：222 は“‘让’本为谦让，把好处给别人之义。”［“让”の本義はへりくだって譲ることであり、利益を他人に譲る意味をする］と指摘している。

4 仁田 1988：35 では、コントロール（意志性）の概念について、「動きの主体が、動きの発生、遂行、達成を自分の意志でもって制御することができるといった性質である」と定義している。コントロール関係は動詞だけではなく、動作主と受け手の間にも反映される。本稿では、使役者が被使役者に働きかけ、動作をさせることを「支配」と称し、使役者が被使役者の動きを抑制、阻止することを「制御」と称する。両者は互いに異なるコントロール関係にあると考えられる。

5 有情物が意志によって動作を行うのに対して、無情物は外因によって動作・行為を実現する。

6 「動作性」（kinesis）とは、動詞が表す過程や状態などのタイプによって分類されるような動詞の語彙クラスのことである。例えば、歩くこと（walking）は移動に関する動作・行為であるため、walk は行為動詞（activity verb）とされ、動作性が高い。何かについて知っていること（knowing something）は心的状態であるため、know は語彙的には状態動詞とされ、動作性が低い。詳細は Peter Hugoe Matthews2009：254 を参照。

参考文献

今村圭「明清白話小説における使役表現の変遷―“让”を中心に」『中国語学』第二百五十九号、百二十四～百四十一頁、2012 年。

木村英樹「中国語ヴォイスの構造化とカテゴリ化」『中国語学』第二百四十七号：十九～三十九頁、2000 年。

木村英樹「ヴォイスの意味と構造」『中国語文法の意味とかたち―「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究』、百八十七～二百十三頁、白帝社、2012 年。

高謙「否定文に見られる使役構造のメカニズム」『現代中国語研究（第 19 期）』、百九～百十七頁、朝日出版社、2017 年。

斎藤純男など『明解言語学辞典』、三省堂、2015 年。

仁田義雄「意志動詞と無意志動詞」『月刊言語』第五号、三十四～四十二頁、1988 年。

仁田義雄「第 1 章　現代語の文法・文法論」『日本語要説（改訂版）』、一～二十九頁、ひつじ書房、2009 年。

Peter Hugoe Matthews『オックスフォード言語学辞典』中島平三など（訳）、朝倉書店、2009

年。
楊凱栄『日本語と中国語の使役表現に関する対照研究』、くろしお出版社、1989 年。
洪波〈使动形态的消亡与动结式的语法化〉《语法化与语法研究（一）》、三百三十～三百四十九页、商务印书馆、2003 年。
侯瑞芬〈再析“不”“没”的对立和中和〉《中国语文》第三号、三百零三～三百一十四页、2016 年。
江蓝生〈汉语使役与被动兼用探源〉《近代汉语探源》、二百二十一～二百三十六页、商务印书馆、2000 年。
刘坚 曹广顺 吴福祥〈论诱发汉语词汇语法化的若干因素〉《中国语文》第三号、一百六十一～一百六十九页、1995 年。
吕叔湘《吕叔湘文集（第一卷）》、商务印书馆、1990 年。
沈家煊〈“语法化”研究综观〉《汉语语法化研究》、一～十八页、商务印书馆、2005 年。
石毓智《语法化的动因与机制》、北京大学出版社、2006 年。
王琳〈清中叶琉球官话课本使役与被动范围的考察〉《汉语学报》第三号、三十四～四十二页、2013 年。
周红《现代汉语致使范畴研究》、复旦大学出版社、2005 年。
Bybee, Joan L. *The evolution of grammar*, The University of Chicago Press, 1994.
Shibatani Masayoshi. *The grammar of causation and interpersonal manipulation*, John Benjamins Publishing Company, 2001.

例文出典

BCC（BLCU Corpus Center）：北京言語大学コーパス。
CCL（Center for Chinese Linguistics PKU）：北京大学漢語言語学研究センターコーパス。